

公開シンポジウム「日本人から見る多層言語社会香港」

Symposium: Multilingual Hong Kong as seen through the eyes of Japanese people

Co-organizers: Hong Kong Project Joint Research Team, Japanese Language Programme, Dept. of Japanese Studies, SMLC, HKU

日時：2016年6月25日（土）午後1時開始（午後4時終了予定）

場所：香港大学

発表

13:00～13:25

香港の中等教育におけるEMIについて: COLT 観察法を用いた分析

An analysis of EMI in Hong Kong middle schools using a COLT Observation Scheme

横山吉樹・北海道教育大学（Yoshiki YOKOYAMA, Hokkaido University of Education）

香港では、1900年、2000年の教育改革によって、バンド(Band)システムと後期イマージョンが定着してきており、Band 1校では、英語による授業が、多くの教科で行われている。本発表では、香港の中等教育における英語の授業を観察し、そこでEMI(English-mediated Instruction)がどのように実践されているのかを調査する。授業観察は、コミュニケーションの指向性を把握するために考案されたCOLT観察法を用い、その学校がどのバンドに属するのかによって、EMIの特徴に変化があるのかを調べる。結果は、Bandによらず、どの学校でも英語の授業は、EMIのみで行われていた。広東語への切り替えや、Mix（広東語と英語の混用）の使用は、ほとんど見られなかった。しかしながら、Bandによって、意味と形式の指向性において違いが見られた、Band 1校では、内容に重きを置く授業が行われていたが、Band 2や3校では、言語形式を中心に教える伝統的な授業が行われていた。

13:25～13:50

香港在住の日英バイリンガル児童の作文力の発達に関する考察

Biliteracy development of Japanese-English bilinguals growing up in Hong Kong

佐野愛子・北海道文教大学（Aiko SANNO, Hokkaido Bunkyo University）

言語的に多様な環境で学童期を過ごす子どもたちがリテラシーの獲得にあたって直面する課題はモノリンガル児童のものとは大きく異なり、両親の母語、滞在年数、母語環境を離れた際の年齢、家庭で使用される言語、二言語の運用能力などが複雑に影響しあうことが指摘されているが、その多くは読解力の発達に関わるもので作文力の発達に関する研究はまだ少ない。また、モノリンガル環境ではないとひとくくりにはできないほど、バイリンガル・マルチリンガルな環境自体も多様化しており、それぞれに特徴的な課題が存在する。本発表では発表者がカナダをフィールドに行った同様の研究で得られた知見と比較しつつ、極めて多様な言語環境下にある香港在住の小学5年生11名の日英作文を分析し、その発達に関わる要因を探る。

14:00～14:20

香港におけるポップカルチャーをきっかけとした日本語学習動機を分析するための理論的枠組み

Theoretical framework for analysis of JFL learners' motivation in Hong Kong

小林 由子・北海道大学 (Yoshiko KOBAYASHI, Hokkaido University)

学習動機を分析するためには、自己決定理論・L2 Motivation Self System・達成動機・時間的展望など、さまざまな理論的枠組みがある。小林 (2016) では、香港におけるポップカルチャーをきっかけとした日本語学習者の動機づけには複数の理論にまたがる側面があることが示唆された。本発表では、分析のための枠組みとしてどのような理論が適切であるかを検討する。

14:20～14:40

広東語と日本語の終助詞について

Sentence-final particles in Cantonese and Japanese

飯田真紀・北海道大学 (Maki IIDA, Hokkaido University)

本発表は広東語と日本語の終助詞について形式・機能の両面から共通性を指摘し、終助詞が言語横断的に有効な言語カテゴリーであるとの主張を述べ、あわせて終助詞の通言語的な位置づけについて考える。

14:50～15:10

出来事を話す際に用いられる「のだ」について [Skype による遠隔発表]

On the use of “Noda” when the speaker talks about an episode.

今泉智子・北海道大学大学院 (Satoko IMAIZUMI, Graduate Student at Hokkaido University)

本研究は「先月、新しい車を買ったんです。」のように、話し手が聞き手の知らない出来事を話す際に用いられる文末の「のだ」に注目し、日本語学習者の使用における問題点とその理由を考察する。

15:10～15:30

遠隔交流を活用した中国語ブレンド型学習の経験が創出する価値 [Skype による遠隔発表]

The values created by the experiences of Chinese blended learning with distance exchange

杉江聡子・北海道大学大学院 (Satoko SUGIE, Graduate Student at Hokkaido University)

本研究は、第二外国語としての中国語において、語彙・文法学習、eラーニング、日本と中国の遠隔交流の3形態を連携させた循環型IDモデルを開発、実践した。その評価として、交流の記録と学習者視点の評価を対象に、学習の経験、成果及びその価値づけを質的に分析した。

15:40～16:00

香港と日本の大学生によるオンライン言語交換学習

Online language exchange between students in Hong Kong and in Hokkaido.

河合靖, 河合剛, 山田智久・北海道大学, 三ツ木真実・北海道文教大学 (Yasushi KAWAI, Goh KAWAI, Tomohisa YAMADA, Hokkaido University; Makoto MITSUGI, Hokkaido Bunkyo University)

言語交換は、異なる母語話者が互いの言語を学び合う外国語学習法である。本発表では、言語交換学習の理論的な特徴を考察し、香港大学、香港中文大学、北海道大学で行われている遠隔言語交換プログラムを報告する。

This symposium is sponsored in part by Grants-in-aid for Scientific Research from the Japan Society for the Promotion of Science (JSPS),

"Constructing Plurilingual Communities in East Asia: Implications from Hong Kong."